

臨床実習指導の体制

はじめに

従来、指導者と実習生のマンツーマンでの実習指導体制でありましたが、昨今では実習生もチームの一員として参加する『診療参加型臨床実習』を行うことが求められています。多くのセラピスト（PT-OT-ST）や他職種（Dr, Nsなど）との連携も多く、情報共有のためのカンファレンスや異なるセラピストに同行することで、実習生には多様な学びを与えられる施設を目指しています。

実習生の一日の流れ

当院では、多種多様な疾患を有する患者さまに対して、より良いリハビリテーションを提供できるように疾患特性に合わせたチーム制を導入しています。実習生もこのチームに配属し、様々なリハビリテーションを学べるような指導体制を整えています。


8時45分	朝礼 チーム カンファレンス		各チームが患者の情報共有を行う カンファレンスに参加
9時00分	チーム活動への参加 ・ 整形外科 ・ 中枢 ・ 循環器 ・ 救命救急		午前中は主要なチームの一員として、 セラピストと同行してリハビリテーション に参加
12時00分	休憩		
13時00分	担当症例 ・ 理学療法の評価 ・ 理学療法の実践		午後は担当症例の理学療法の評価や治療 を实践
15時00分	自己学習 ・ デイリーレポート ・ 指導者のフィード バック		15時以降には、一日で学んだことを整理し デイリーレポートや指導者のフィードバック を行います
17時15分			

図1 実習生の一日の流れ

様々な疾患のリハビリテーションを見学します

当院は複数の診療科（27種類）を備えており、理学療法の依頼も多くの診療科からの依頼があります。運動器疾患、脳血管疾患のみならず、肺炎や敗血症などの内因性疾患や外傷などの外因性疾患など多種多様な疾患のリハビリテーションを経験できることが特徴です。

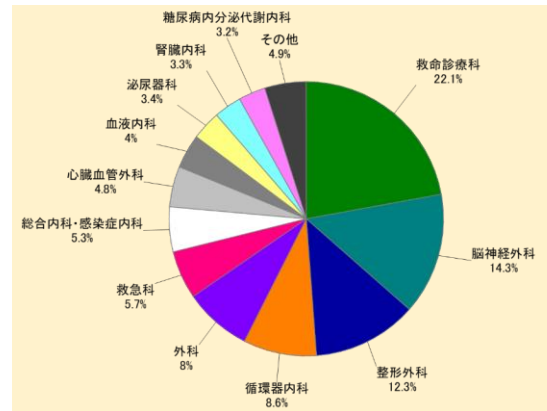


図2 理学療法の依頼診療科（2021年度）

実習生の学びを促進するための環境整備

● 養成校の教員との情報共有

養成校の方針の再確認や実習の進捗状況の共有だけでなく、学生の性格や特徴を学校の様子など、個々の学生に合わせた指導方法を検討します。



● 学習のアウトプットの設定 ※養成校の方針に従い実施しない場合あり

学んだ内容について学習の定着を図ります。様々な視点で現役のセラピストから治療やそのプロセスの理解を深めることができます。



● 実習生の学習整理の時間を担保

約2時間程度の自習時間を確保し、学習した事項をデイリーレポートにまとめて頂き、その当日または次の実習日に指導者からフィードバックを受けれるようにしています。自宅での学習時間や睡眠時間などを担保し、実習生の負担の軽減を考慮しています。

